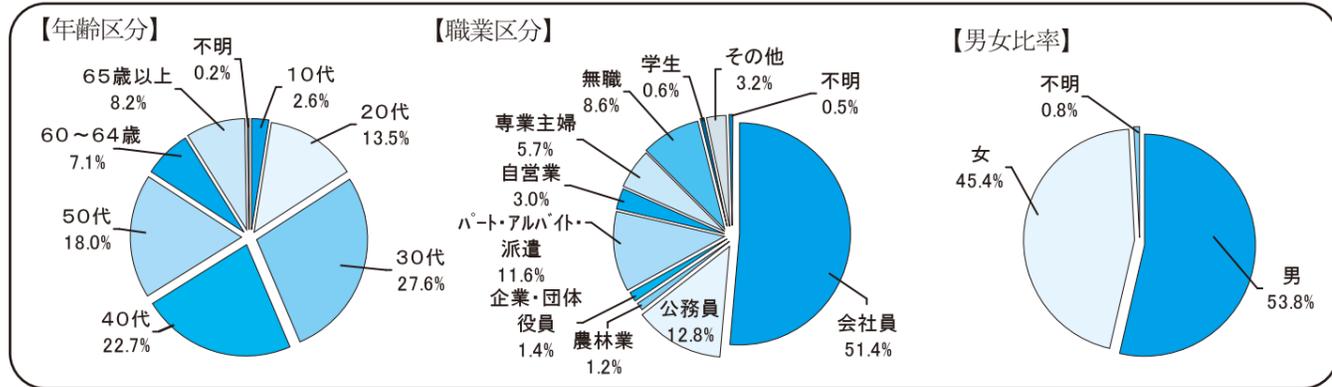


連合群馬2009年 県民意識調査結果 11,279名の調査！

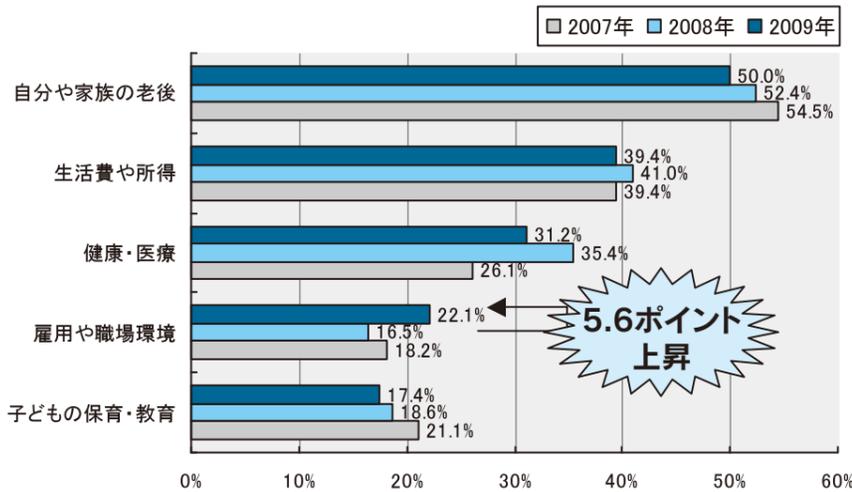
毎年実施している「県民意識調査」は、一人ひとりの考えや要望を幅広い層から集約・分析し、政策課題や知事へ要請を行う「政策・制度要求と提言」の基礎データとして活用します。

本年は1月から実施し、加盟組合員（組織内）より5,596名、一般県民（組織外）より5,683名の合計11,279名の方から協力をいただきました。今回は、集約の結果について一部紹介します。



心配事・困り事、関心事は何ですか？（2つ選択）

今年も心配事のトップは「自分や家族の老後」



『自分や家族の老後』が最も高く、03年から7年連続してトップとなっています。

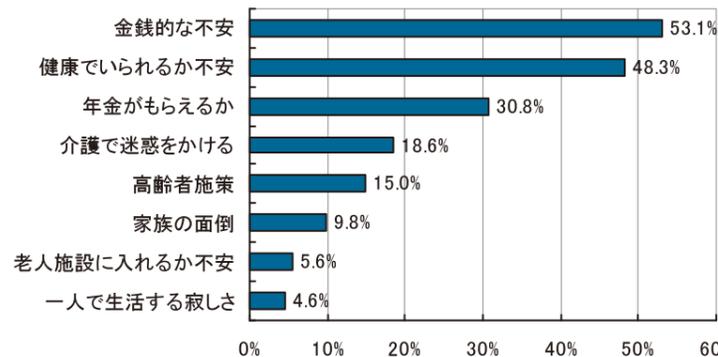
今年の特徴は昨年5番目だった『雇用や職場環境』に対する不安が5.6ポイント上昇しました。100年に一度といわれる景気悪化で、雇用や職場環境に不安を抱く方が増えていることが分かります。

5.6ポイント上昇

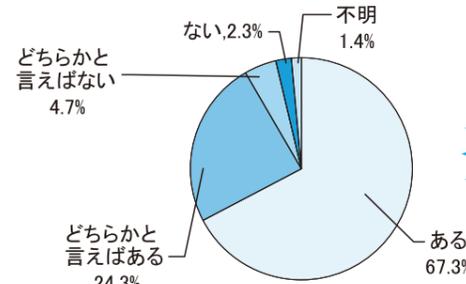
自分や家族の老後の具体的な不安は？（2つ選択）

『金銭的な不安』や『いつまで健康でいられるか不安』の2項目が5割程度の高い値を示し、『年金がもらえるか不安』が続いて高く、『介護で周囲に負担をかける心配』、『介護保険など高齢者施策が不十分』の2項目も2割程度の値を示しています。

将来への福祉・社会保障に関する不安が増大する中、少子化や高齢者施策に対する心配、国や行政への期待感の高まりが伺えます。



雇用環境や会社の将来、先行きに対して不安はありますか？（1つ選択）



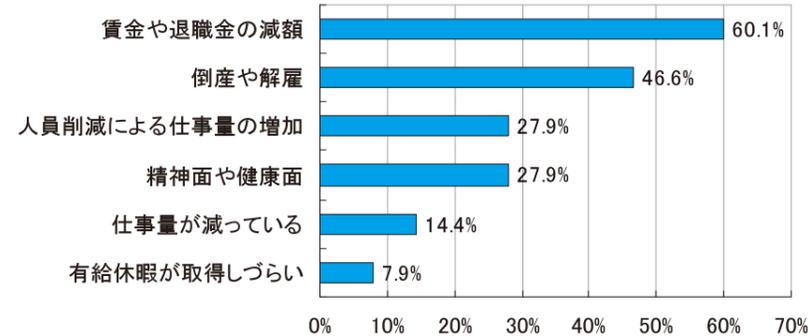
将来不安が9割！

『ある』『どちらかと言えばある』の2項目が高く、9割以上の方がいると回答しています。

昨年取得した同様の設問では、『ある、どちらかといえばある』が約6割の回答であり、昨年と比較して3割以上も不安感が増加しています。



雇用されている方はどんなことが不安ですか？（2つ選択）

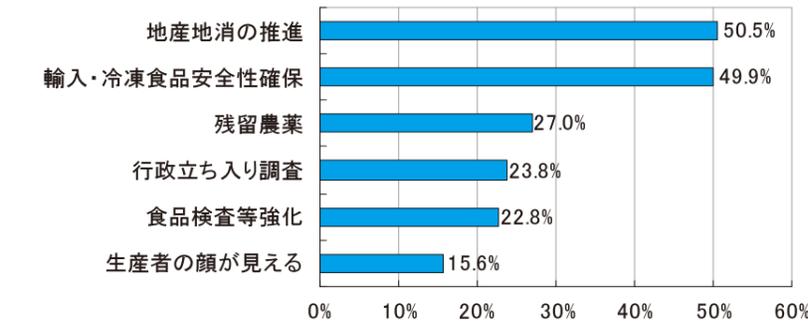


『賃金や退職金の減額』がもっとも高く、『倒産や解雇』が続いています。

昨年の雇用・労働に対する設問を比較すると、内容が若干違いますが、『倒産や解雇』に対する不安は10%程度であり、急速な経済情勢の悪化が私たちの雇用不安を一層増加させています。



食品に関して県に取り組んで欲しいこと？（2つ選択）

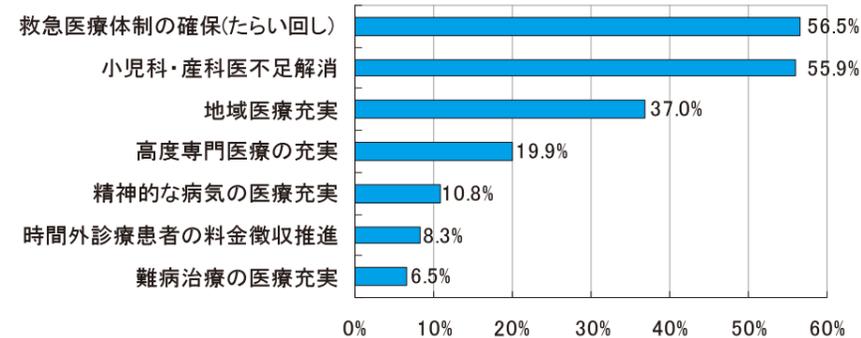


『地域で生産・消費（地産地消）の推進』の値が最も高く、『輸入食品・冷凍食品の安全性確保』が切迫し高い値です。

食品表示偽装問題や中国冷凍餃子事件などで、消費者の不安は高まり、地場産の推進や食品の安全確保の声が多いことが分かります。



医療の充実に関して必要なことは？（2つ選択）



『救急医療体制の確保（たらい回し対策）』の値が最も高く、『小児科・産科医不足解消』が切迫して高い値です。『地域医療の充実』の値が比較的高く続いています。

救急医療や小児科・産科医などは、限られた人が対象ですが、高い数値が示すとおり、いざという時の安心できる医療体制の確保が重要との結果となっています。

政策フォーラム 7月25日(土) 9:30～(9:10受付開始) 伊勢崎市民プラザ(多目的ホール)

※県民意識調査結果報告・2010年度政策制度要求と提言(案)の考え方 どなたでも参加できますのでご希望の方は連合群馬へご連絡ください。

2009年度県民意識調査結果、政策・制度要求の詳細は、連合群馬HPに掲載しています。
<http://www.rengo-gunma.gr.jp/siryoku/index.html>
 意識調査に関する問い合わせは、連合群馬(担当 小川)まで。TEL027-263-0555 FAX027-261-0549